



坂本 理事長

## 近畿の印刷産業を支え続けて70年

# 改元を新たな出発点に

近畿印刷産業機材協同組合(坂本進理事長)は1月31日、大阪・天王寺区のシェラトン都ホテル大阪において「創立70周年記念式典」を開催。組合員をはじめ関係諸官庁並びに関連団体役員らおよそ120名が参列のもと70年の節目を祝い、さらなる業界の隆盛を祈念した。当日は、大阪観光局・溝畑宏理事長による記念講演会をはじめ、記念祝典、祝宴の3部構成で進められ、祝典では組合役員表彰として5名、従業員表彰として26名がそれぞれ表彰され、その栄に浴した。

## 創立70周年記念式典に120名が参列

近畿印刷産業機材協同組合は、戦後復興期の昭和24年5月17日、物資の配給その他共通の事業展開を目的に、府下印刷関連機械製造業39社が参加して産声をあげた「大阪府印刷製本機械工業協同組合」を母体としており、このほど人言えば「古稀」となる創立70周年を迎えた。

戦後の疲弊した状態から復興期を経て2度にわたる石油ショックを経験したが、高度経済成長により組合員は各々自立発展の道を着実に歩んできた。また、バブル崩壊から平成不況、阪神淡路と東日本という2度の大地震など様々な困難があったが、同協同組合はそのような事態に対して組織強化を図り、平成5年4月に西日本印刷製本機械工業協同組合と合併したのをはじめ、平成13年12月には近畿印刷機材協議会と、また平成15年4月1日には大阪印刷材料同業会と合併し、現在の姿になった。この間、日本の印刷産業は経済・文化の進展とともに成長を遂げ、国民生活に密着しながら大きな役割を果たしてきた。設立当時の組合員は、圧倒的に活版印刷機製造業者が多く、次に断裁機、石版、製本関連機と続いたが、この70年間における時代の変遷と技術進歩を背景にその取扱商品も一変している。

### 大阪観光局・溝畑宏理事長が講演

1月31日に開催された創立70周年記念行事で、祝典に先立ち開催された講演会では、(公財)大阪観光局の溝畑宏理事長が「2025年万博に向かって関西・大阪から元気を発信!」と題して講演。溝畑理事長は、「大阪人のアイデンティティ」に言及した上で、「い



ま、大阪経済に大きなチャンスが訪れている」と述べ、「OSAKA」のブランディング構築の要素となる食やウェルネス、ポップカルチャー、産業観光などの可能性を示した。

また、実際に大阪の訪日外国人旅行者数が飛躍的に伸びていることを数字で示した上で、大阪観光局が取り組む3つのコンセプト「24時間観光都市」「関西・西日本観光におけるハブ」「多様性あふれる街づくり」の一端を紹介した。

さらに、昨年のラグビーワールドカップ日本大会をはじめ、今年の東京オリンピック・パラリンピック、来年の世界マスターズゲームズ関西、2024年のIRオープン、2025年の大阪万博といった大阪の都市魅力に資する大規模なプロジェクトを控え、これらに向けて大阪



講演する大阪観光局・溝畑理事長

観光局は、「大阪が日本観光のショーケース・トップランナー、成長戦略の起爆剤となることを目指している」とし、大阪経済発展に向け、さらなる理解と協力を求めた。

(次頁に続く)